

1976.6.10

東京蜘蛛談話会

住所変更

吉田哉氏。(山形県)
593 堺市上野芝向ヶ丘町
3-1223-7

入会

加藤笑子氏
255 神奈川県中郡大磯町151
phone: 0463-6-0848
5月16日の観察採集会に参加して下さりました。

5月16日の観察・採集会には、以下の元々が参加して、盛大に行なわれました。

参加者 (50音順・敬称略): 相本, 梅林, 加藤, 熊田, 権田, 貞元, 新海, 関下, 高橋(登), 運石, 松本, 吉谷, 松本, 以上13名。

日向薬師から広沢寺までの間にみかけたクモは以下のようでした。

- コガタコカネグモ (1.2mm, マトイ中),
クスマサラクモ 早 (5mm)
ユウレイクモ (5mm)
ナニフコツブクモ 成体,
クサクモ (6mm)
オオヒメクモ (2mm)
ヒラタクモ (2mm)
キノボリトゲテクモの空巣 (土の中にある),
カネコトゲテクモ (8mm, 1cm, 2.5cm),
コクサクモ (2mm),
ヤマトコハクモ 早 (とうらうのわきに迷網),
ミヤクモ (1cm & 1.2cm)
クカユヒメクモ 幼体 (1mm)
コハククモ (2.5mm)
ヤマシロオウクモ (4mm, タカラクニカ海生, 仔料の草の花に定座。一糸をひきわけて)

その上に卵を55個めくわす。
植物は カラス / キハヒキ Bromus
secalinus L. 西粟田原産、日本と北米に帰化 (関下氏1033)
ドウシクモ (2.5mm, 木の幹上を
はらうた)。
ヨクニハエト (6mm, 地上をはいく)
ムナアカフクロクモ (6mm, ヤマブキの葉
の裏に住居を作る)
ヨツデゴミクモ 早 (5mm)
ハツリクモ (5mm)
スズアカハシクモ (9mm, シガの葉先
に、糸でシートを作りその上にとま
り、ハチかヒラえられつた)
オナカクモ (15mm) シートと
ヤエオウクモ (12mm)
カラフトオウクモ (アミの奇数は、ヨコ28本
タテ34本 (1/18), アルバ4本)。
以上は、松本のみた合です。その他のクモ
是非、通信か KISHIDAIA へ投稿して
下さい。

HOT NEWS!

5月22日(土)に、
小野展嗣氏が、
(旧姓 有馬) 恭子さんと
ご結婚されました。
学習院大学の同窓生です。
おめでとうございませう。
(今後、クモがよろこばない方には、
それ、挨拶をさみしからせぬよう、
うまくやって下さい。)

東京蜘蛛談話会蔵書目録 (コピーに応じます。申し込みは平山局まで)

No.58. 東亜蜘蛛学会(1975) ATYPUS, (63): 1-40

第6回大会講演要旨: 京都長刀坂における造網性クモ群集の研究—生息場所および季節相の検討—(本田重義); 潮間帯に生息するササラグニ(青木淳一); シムカテ類の土壌中の垂直分布と季節変動(篠原圭三); 水田上のトラップネットで捕獲されたクモ(大熊千代子); 宮崎県青島産のクモ(石野田辰夫); 南九州の洞穴産クモ類(I)(入江照雄); シマフジヤステ *Anaulaciuulus quadratus* に対するBHC及びマラソンの効力について(高野光男); フスミサラグモの環境嗜好について(新海明); オオシロカネクモの産卵に及ぼす餌量の影響(吉田真); 産室をつくるコモリクモについて(藤井靖浩); シモンクモについて(大村昌久); ムカテの産卵行動(石井清); アシタカクモの奇脚の筋肉について(萱嶋泉); クモ初期胚の比較形態学的研究(近藤昭夫・山本典子); 隠気門類(ササラグニ類)の後胚子発生について(鈴木忠一); シモフリヤチクモおよびヤマヤチクモとその近似種(西川善朗); ウデヅトハエトリとその近似種について(松本誠治); オスクロハエトリとヤハズハエトリは同一種の雌雄か(十国安之輔); 最近採れた珍しいクモ(新海栄一)

第6回大会総会決定事項: 会費の支払いについて; 学会マークについて; ユウレイクモ科シモンクモの正体(八木沼健夫); 青島クモ紀行(本田重義); 墓場のクモ(茅根重天); キシダクモ属の検討(有田立身・八木沼健夫); 分布資料(八木沼健夫・新海栄一); GOSSAMER: 雑誌(第6回大会の誌); エゾトタテクモの生態—成体雄のワングリン時期とその時間帯について—(諏訪将良); オスクロハエトリの雌雄とヤハズハエトリの雄(八木沼健夫); 編集後記.

59. 玉川大学生物自然研究部(1975) 野路, (4): 1-16.

玉川学園の真正蜘蛛類—観察会・野帳より—(田中理恵・松田まゆみ・石井啓子) pp. 5-10.

60. 三重クモ談話会(1974) シのびクモ, (2): 1-20.

伊勢神宮の珍蜘蛛ヤノボリトタテクモとキノウエトタテクモについて(孫福正); アリクモ等の擬態について(松本誠治); 蜘蛛あれこれ(水谷慶治); NHK番組制作に協力して(橋本理市); 三重県南部地方の真正蜘蛛類目録(追加)(貝發寛治); 東亜蜘蛛学会第7回 全国大会 三重県にて開催決定; 会費名簿; 昭和49年度決算報告; 会費領収; 編集後記.

61. (1974) 週刊ポスト Vol. 6, No. 36 (通巻265号).

pp. 66-70, 小沢昭一 四畳半むし(クモ)評談 ②, ゲスト尼崎斐呂詞(昆虫師) いかもの食い方 食糧危機を減らすかへノカ、ハという自然食料理法.

(蔵書目録 続々)

- 62. ハ木沼健夫 (1975) 日本の真正蜘蛛類相 (V). 追大文紀, (9): 187-195.
- 63. KASTON, B.J. (1954) Is the Black Widow Spider Invading New England? Science, 119(3084):192
- 64. PLATNICK, Norman (1971) The Evolution of Courtship Behaviour in Spiders. Bull. Brit. Arach. Soc., 2(3):40-47.
- 65. DAVIES, M.E. & E.B. EDNEY (1952) The Evaporation of Water from Spiders. J. Exp. Biol., 29(4):571-582.
- 66. PARRY, D.A. (1954) On the Drinking of Soil Capillary Water by Spiders. J. Exp. Biol., 31(2):218-227.
- 67. PRINGLE, J.W.S. (1955) The Function of the Lyriform Organs of Arachnids. J. Exp. Biol., 32(2):270-278.
- 68. PARRY, D.A. & R.H.J. BROWN (1959) The Hydraulic Mechanism of the Spider Leg. J. Exp. Biol., 36(2):423-433
- 69. PARRY, D.A. & R.H.J. BROWN (1959) The Jumping Mechanism of Salticid Spiders. J. Exp. Biol., 36(4):654-664.
- 70. PARRY, D.A. (1965) The Signal Generated by an Insect In a Spider's Web. J. Exp. Biol., 43:185-192.

◎ 蔵書は、これだけなりました。基礎には2"協力下さい。別紙の、コピーしたものを結構です。

7モに關する用語-II-

Willis J. Gertsch (1949) AMERICAN SPIDERS. DVAN NOSTRAND Co. Inc., (Princeton) pp. 267-270 Glossaryの訳です。和語の訳は一般的と思われものを採用しました。

Calamistrum: 「毛櫛」(ハ木記), 櫛毛」(齊藤), 第4脚跗節上におき曲った毛の列で、いくぶんな濃範囲に生える, 蟻痕から出る毛をさきく櫛に使われる。

Carapace: 「背甲」7モカクシ綱における頭胸部の背部をおおうかたい殻。

Cephalothorax: 「頭胸部」7モカクシ綱と甲殻綱の合一した

頭部と胸部。

Chelicerae: 「鉗角」7モカクシ綱の脚第1付屬肢で、ヒンエト状をなす。7モでは、2節になつてゐる (In spiders two-segmented), 末端部すなわち牙は獲物に、鉗角内の腺 (enclosed glands) から出る毒を注入するのにつかう。

Chorion: 「コロオン」7モや昆虫の卵の外側のおおいすなわち殻。 (卵殻といつていいの? しらか?)

Coxa: 「基節」歩脚の一番もとの節で、これによつて、胴体と区別される。

claw tufts: 「末端毛束」多くの7モの跗節の先端にある1対の毛の下に生えてゐる束状の毛で、蟻痕の束は対する。

(クモに関する用語-II-続之)

Colulus: 「間疣」(ハ本匠), 「舌状疣」(斎藤), あるクモにおいてみられる糸疣の直前にある, 細い糸状の突起。多くのクモでは消失している。前中疣と同一である。

Coxal glands: 「基節腺」, クモが9個の排泄器官, クモでは第1脚及び第3脚の基節の向い側に位置している。小囊中に発酵物をおさえ, 基節腺の開口部を通して排泄している。Peripatus などのネアリチア(nephridia)と同一である。

Cribellum: 「篩疣」, 「篩板」, 多くのクモにおいて, 糸疣の前方に存在する, 糸状の横長の板である。普通は, 細い中肋で, 2つの同大の部分に分けられている。前中疣の変形したものである。

Cuticle: 「クチクラ」節足動物の硬い外皮(クチクラとよばれる)であるものか不明。外皮とした方がよいかもしれない。

Dentovulum: 卵の殻から出て来た状態の, 動かしにくい時期。形は, クモと同じようになっている。オ2次卵(the second egg)。(発生学用語? シラカ? 和邦語は不明)

Ecdysis: 「脱皮」, 外皮を脱ぎ捨てること。molting.

Endite: 「下顎」, 大部分のクモの脚の基節によって形成される。獲物をくたぐりに使用される。the maxilla.

Epigynum: 「外雌器」(ハ本匠), 「雌外部生殖器官」(斎藤), 精子を貯えておくための多少複雑な構造に似た器官で, 雌の内部生

殖器官の開口部直前にある。

Femur: 「腿節」, the thigh. 普通は, クモの脚の中で最も太い節で, 転節・基節を通じて体とつながる。末端に向っては, 膝節・その他の残りの節が生えている。

Genitalia: 「ゲニタリア」, 生殖に関する構造の全て。この説明からは, 「Epigynumの内部」という意味は出て来ません。雄の脚もゲニタリアという事になります。日本語でつかわれるゲニタリアは検討が必要かもしれません。]

Hackled band: 「梳条」(ハ本匠), 「条帯」(斎藤), 篩板を持つクモのすく糸の一つ。篩板によって紡ぎ出され, 櫛毛(毛櫛)によって, 梳かれて, 糸となる。
(p.268 終り)

()内は訳者の注です。不適者などがあると思います。なお(ハ本匠)(斎藤)とあるのは両先生の国分監にある術語という意味です。この項の責任は私にありません。

最近, 入会者が多くなりました。大変うれしく思っています。入会された方は新しくても, 古くても, 同等の立場になります。いろいろの意味をおまかせ下さい。KSHIPAIYAへの投稿も大歓迎です。前号に, 首肯とありましたが首肯の誤りでした。訂正し, お詫びいたします。

東京蜘蛛談話会

本部: 191 日野市豊田1896

萱嶋 泉 子

phone: 0425-81-7128

本通信の発行責任者は私を認めて下さい。その他は, 6月13日総会で決定されます。